

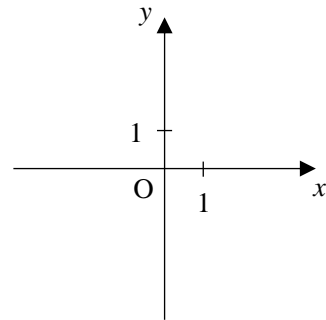
複素数平面

以下、 i は虚数単位を表すものとする。

1 複素数平面

次の複素数を表す点を複素数平面上に図示せよ。

- (1) $2+3i$ (2) $-1+2i$ (3) $-3-i$
 (4) $2-2i$ (5) -2 (6) i
 (7) 0

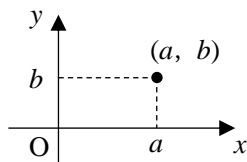


要 点

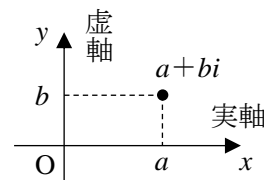
複素数平面

a, b を実数とする。複素数 $a+bi$ は、実部 a と虚部 b の組で定まるから、 $a+bi$ に座標平面上の点 $P(a, b)$ を対応させると、すべての複素数がこの平面上の点で表される。各点が複素数を表すと定められた座標平面を **複素数平面** といい、 x 軸を **実軸**， y 軸を **虚軸** という。

複素数 $z=a+bi$ を表す点 P を、 **$P(z)$** または **$P(a+bi)$** で表す。単に **点 z** または **点 $a+bi$** と表すこともある。

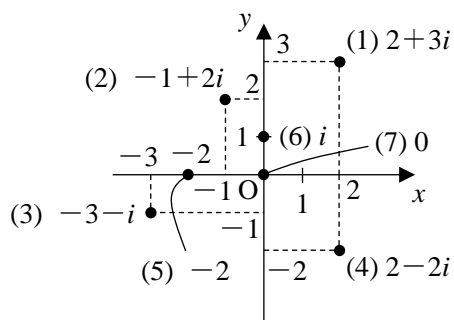


座標平面



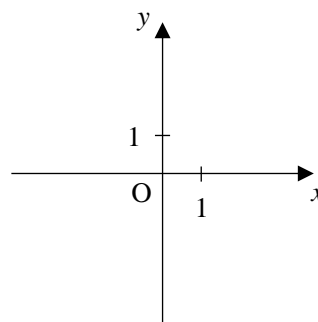
複素数平面

解答



2 共役な複素数

(1) $z = 1 + 2i$ のとき, 4 点 $z, \bar{z}, -z, -\bar{z}$ を複素数平面上にそれぞれ図示せよ。



(2) 複素数 α, β について, 次の問いに答えよ。

- ① $\alpha - \beta = -2$ のとき, $\bar{\alpha} - \bar{\beta}$ を求めよ。
- ② $\alpha\beta = 3i$ のとき, $\bar{\alpha}\bar{\beta}$ を求めよ。

要 点

a, b を実数とする。

複素数 $z = a + bi$ に対して, $\bar{z} = a - bi$ を z の **共役な複素数** という。

共役な複素数の性質

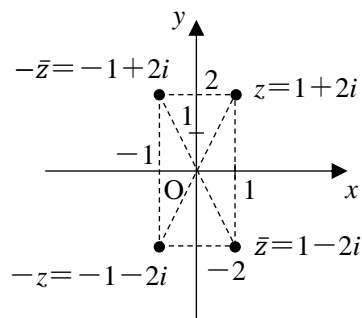
複素数 $z = a + bi$ に対して

- z が実数のとき, $b = 0$ であるから $\bar{z} = z$
- z が純虚数のとき, $a = 0, b \neq 0$ であるから $\bar{z} = -z$ かつ $z \neq 0$
- z, w は複素数とする。

- 1** $\overline{z + w} = \bar{z} + \bar{w}$ **2** $\overline{z - w} = \bar{z} - \bar{w}$ **3** $\overline{z\bar{w}} = \bar{z}w$
- 4** $\overline{\left(\frac{z}{w}\right)} = \frac{\bar{z}}{\bar{w}} \quad (w \neq 0)$ **5** $\overline{(\bar{z})} = z$

解答

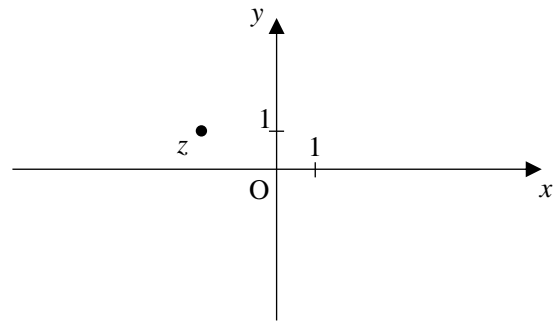
(1)



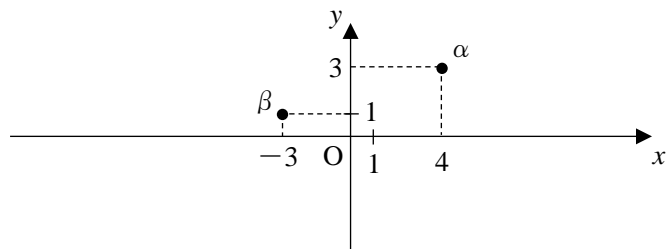
- (2) ① $\alpha - \beta$ は実数であるから $\overline{\alpha - \beta} = \alpha - \beta = -2$
 よって $\bar{\alpha} - \bar{\beta} = \overline{\alpha - \beta} = -2$
- ② $\alpha\beta$ は純虚数であるから $\overline{\alpha\beta} = -\alpha\beta = -3i$
 よって $\bar{\alpha}\bar{\beta} = \overline{\alpha\beta} = -3i$

3 複素数の実数倍, 加法, 減法

(1) $z = -2 + i$ のとき, 点 $2z, 3z, -z, -2z, -3z$ を複素数平面上にそれぞれ図示せよ。



(2) $\alpha = 4 + 3i, \beta = -3 + i$ のとき, 点 $\alpha + \beta, \alpha - \beta, -\alpha + 3\beta$ を複素数平面上にそれぞれ図示せよ。

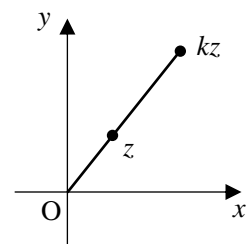


要 点

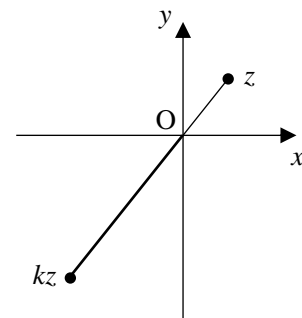
複素数の実数倍

0 でない複素数 z と実数 k について, 次のことが成り立つ。

- 3 点 $O(0), z, kz$ は一直線上にある。
- $k > 0$ のとき, 点 kz は原点に関して点 z と同じ側にあり, 原点からの距離は $0, z$ 間の距離の k 倍である。



- $k < 0$ のとき, 点 kz は原点に関して点 z と反対側にあり, 原点からの距離は $0, z$ 間の距離の $|k|$ 倍である。

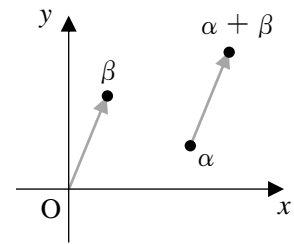


- $k = 0$ のとき $kz = 0$

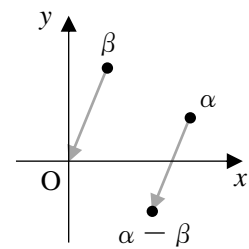
複素数の加法, 減法

複素数 α, β について, 次のことが成り立つ。

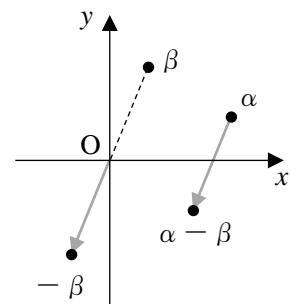
・点 $\alpha + \beta$ は, 原点 O を点 β に移す平行移動
 によって点 α を移した点である。



・点 $\alpha - \beta$ は, 点 β を原点 O に移す平行移動
 によって点 α を移した点である。

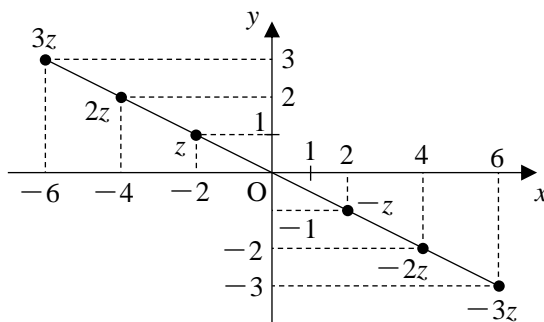


〈注意〉 $-\beta = +(-\beta)$ より, 点 β を原点 O に
 移す平行移動は, 原点 O を点 $-\beta$ に
 移す平行移動と同じである。

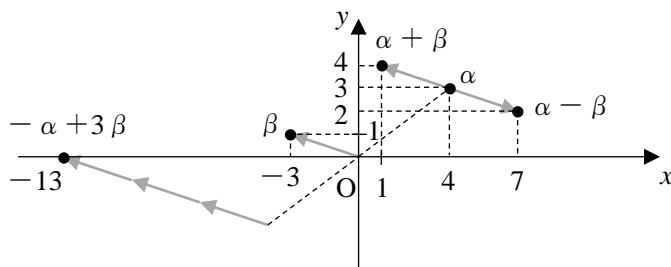


解答

(1)



(2)



4 複素数の絶対値

次の複素数の絶対値を求めよ。

- (1) $1+2i$ (2) $-3+4i$ (3) 2 (4) $-i$

要 点

複素数の絶対値

a, b を実数とする。複素数 $z = a + bi$ に対し、 $\sqrt{a^2 + b^2}$ を z の **絶対値** といい、 $|z|$ で表す。

すなわち $|z| = |a + bi| = \sqrt{a^2 + b^2}$

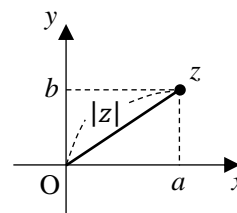
$|z|$ は、原点 O から点 z までの距離である。

$|z| \geq 0$ であり、 $|z| = 0$ となるのは $z = 0$ のときに限る。

〈注意〉 $z = a + bi$ のとき、 $\bar{z} = a - bi$ であり、

$$z\bar{z} = (a + bi)(a - bi) = a^2 - b^2i^2 = a^2 + b^2 \text{ より}$$

$$|z|^2 = z\bar{z} \text{ が成り立つ。}$$



解答

- (1) $|1 + 2i| = \sqrt{1^2 + 2^2} = \sqrt{5}$ (2) $|-3 + 4i| = \sqrt{(-3)^2 + 4^2} = 5$
 (3) $|2| = \sqrt{2^2 + 0^2} = 2$ (4) $|-i| = \sqrt{0^2 + (-1)^2} = 1$

5 複素数の極形式

次の複素数を極形式で表せ。ただし、偏角 θ は $0 \leq \theta < 2\pi$ とする。

- (1) $1 + \sqrt{3}i$ (2) $-2 - 2i$ (3) -1 (4) $3i$

要 点

a, b を実数とする。0 でない複素数 $z = a + bi$ を表す点を P とする。

半直線 OP を動径と考えて、動径 OP の表す角 θ を z の **偏角** といい、 $\arg z$ で表す。

〈注意〉 記号 \arg は argument の略である。

$OP = r$ とすると、 r は z の絶対値であり、 $a = r\cos \theta$ 、 $b = r\sin \theta$ となり、

$z = a + bi$ は $z = r(\cos \theta + i\sin \theta)$ の形で表される。これを、複素数 z の **極形式** という。

以上をまとめると、0 でない複素数 $z = a + bi$ において

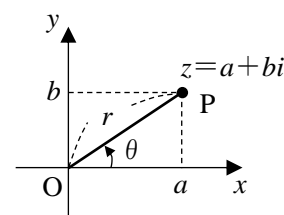
$$r \text{ は } z \text{ の絶対値であるから } r = \sqrt{a^2 + b^2}$$

$$\theta \text{ は } z \text{ の偏角であるから } \cos \theta = \frac{a}{r}, \sin \theta = \frac{b}{r} \text{ を満たす角であり、}$$

その極形式は $z = r(\cos \theta + i\sin \theta)$ と表される。

〈注意〉・0 でない複素数 z において、 z の絶対値は 1 通りに定まるが、偏角 θ はその 1 つを θ_0 としたとき $\theta = \theta_0 + 2n\pi$ (n は整数) も同じ位置にくるから 1 つに定まらない。 $0 \leq \theta < 2\pi$ や $-\pi \leq \theta < \pi$ の範囲で偏角を考えるのが一般的である。

・ $z = 0$ のときは偏角が定められないため、極形式は考えない。



解答

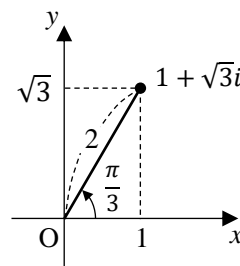
(1) $1 + \sqrt{3}i$ の絶対値は

$$|1 + \sqrt{3}i| = \sqrt{1^2 + (\sqrt{3})^2} = 2$$

偏角 θ は

$$\cos\theta = \frac{1}{2}, \quad \sin\theta = \frac{\sqrt{3}}{2} \text{ より } \theta = \frac{\pi}{3}$$

$$\text{よって } 1 + \sqrt{3}i = 2 \left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right)$$



(2) $-2 - 2i$ の絶対値は

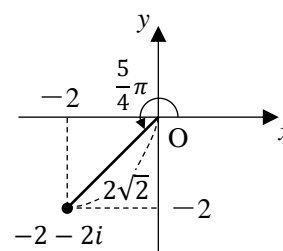
$$|-2 - 2i| = \sqrt{(-2)^2 + (-2)^2} = 2\sqrt{2}$$

偏角 θ は

$$\cos\theta = \frac{-2}{2\sqrt{2}} = -\frac{1}{\sqrt{2}}, \quad \sin\theta = \frac{-2}{2\sqrt{2}} = -\frac{1}{\sqrt{2}} \text{ より}$$

$$\theta = \frac{5}{4}\pi$$

$$\text{よって } -2 - 2i = 2\sqrt{2} \left(\cos \frac{5}{4}\pi + i \sin \frac{5}{4}\pi \right)$$



(3) -1 の絶対値は

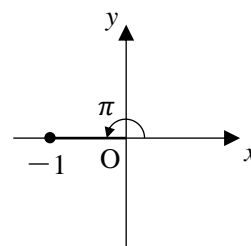
$$|-1| = \sqrt{(-1)^2 + 0^2} = 1$$

偏角 θ は

$$\cos\theta = \frac{-1}{1} = -1, \quad \sin\theta = \frac{0}{1} = 0 \text{ より}$$

$$\theta = \pi$$

$$\text{よって } -1 = \cos \pi + i \sin \pi$$



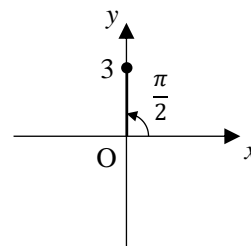
(4) $3i$ の絶対値は

$$|3i| = \sqrt{0^2 + 3^2} = 3$$

偏角 θ は

$$\cos\theta = \frac{0}{3} = 0, \quad \sin\theta = \frac{3}{3} = 1 \text{ より } \theta = \frac{\pi}{2}$$

$$\text{よって } 3i = 3 \left(\cos \frac{\pi}{2} + i \sin \frac{\pi}{2} \right)$$



6 複素数の乗法・除法

$\alpha = \sqrt{3} - i$, $\beta = -2 + 2i$ のとき, $\alpha\beta$, $\frac{\alpha}{\beta}$ をそれぞれ極形式で表せ。

ただし, 偏角 θ は $0 \leq \theta < 2\pi$ とする。

要 点

0 でない 2 つの複素数を

$$z_1 = r_1(\cos \theta_1 + i \sin \theta_1), \quad z_2 = r_2(\cos \theta_2 + i \sin \theta_2)$$

とすると、積 $z_1 z_2$, 商 $\frac{z_1}{z_2}$ は次のようになる。

$$\begin{aligned} \bullet z_1 z_2 &= r_1(\cos \theta_1 + i \sin \theta_1) \cdot r_2(\cos \theta_2 + i \sin \theta_2) \\ &= r_1 r_2 (\cos \theta_1 \cos \theta_2 + i \sin \theta_2 \cos \theta_1 + i \sin \theta_1 \cos \theta_2 + i^2 \sin \theta_1 \sin \theta_2) \\ &= r_1 r_2 \{ (\cos \theta_1 \cos \theta_2 - \sin \theta_1 \sin \theta_2) + i (\sin \theta_1 \cos \theta_2 + \cos \theta_1 \sin \theta_2) \} \end{aligned}$$

三角関数の加法定理 $\cos(\alpha + \beta) = \cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta$

$$\sin(\alpha + \beta) = \sin \alpha \cos \beta + \cos \alpha \sin \beta$$

を適用すると

$$z_1 z_2 = r_1 r_2 \{ \cos(\theta_1 + \theta_2) + i \sin(\theta_1 + \theta_2) \}$$

$$\begin{aligned} \bullet \frac{z_1}{z_2} &= \frac{r_1(\cos \theta_1 + i \sin \theta_1)}{r_2(\cos \theta_2 + i \sin \theta_2)} = \frac{r_1}{r_2} \cdot \frac{(\cos \theta_1 + i \sin \theta_1)(\cos \theta_2 - i \sin \theta_2)}{(\cos \theta_2 + i \sin \theta_2)(\cos \theta_2 - i \sin \theta_2)} \\ &= \frac{r_1}{r_2} \cdot \frac{\cos \theta_1 \cos \theta_2 - i \sin \theta_2 \cos \theta_1 + i \sin \theta_1 \cos \theta_2 - i^2 \sin \theta_1 \sin \theta_2}{\cos^2 \theta_2 + \sin^2 \theta_2} \\ &= \frac{r_1}{r_2} \cdot \frac{(\cos \theta_1 \cos \theta_2 + \sin \theta_1 \sin \theta_2) + i (\sin \theta_1 \cos \theta_2 - \cos \theta_1 \sin \theta_2)}{\cos^2 \theta_2 + \sin^2 \theta_2} \end{aligned}$$

三角関数の加法定理 $\cos(\alpha - \beta) = \cos \alpha \cos \beta + \sin \alpha \sin \beta$

$$\sin(\alpha - \beta) = \sin \alpha \cos \beta - \cos \alpha \sin \beta$$

を適用すると

$$\frac{z_1}{z_2} = \frac{r_1}{r_2} \cdot \frac{\cos(\theta_1 - \theta_2) + i \sin(\theta_1 - \theta_2)}{1} = \frac{r_1}{r_2} \{ \cos(\theta_1 - \theta_2) + i \sin(\theta_1 - \theta_2) \}$$

以上から、次のことが成り立つ。

0 でない 2 つの複素数 $z_1 = r_1(\cos \theta_1 + i \sin \theta_1)$, $z_2 = r_2(\cos \theta_2 + i \sin \theta_2)$ において

$$\boxed{1} \quad z_1 z_2 = r_1 r_2 \{ \cos(\theta_1 + \theta_2) + i \sin(\theta_1 + \theta_2) \}$$

$$\text{これから } |z_1 z_2| = |z_1| |z_2|, \quad \arg(z_1 z_2) = \arg z_1 + \arg z_2$$

$$\boxed{2} \quad \frac{z_1}{z_2} = \frac{r_1}{r_2} \{ \cos(\theta_1 - \theta_2) + i \sin(\theta_1 - \theta_2) \}$$

$$\text{これから } \left| \frac{z_1}{z_2} \right| = \frac{|z_1|}{|z_2|}, \quad \arg \frac{z_1}{z_2} = \arg z_1 - \arg z_2$$

解答

α, β の極形式は

$$\alpha = \sqrt{3} - i = 2 \left(\cos \frac{11}{6} \pi + i \sin \frac{11}{6} \pi \right)$$

$$\beta = -2 + 2i = 2\sqrt{2} \left(\cos \frac{3}{4} \pi + i \sin \frac{3}{4} \pi \right)$$

であるから

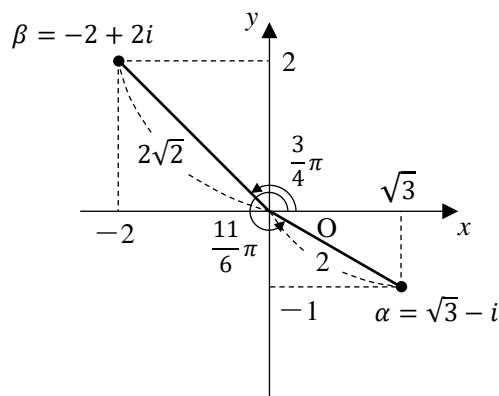
$$\alpha\beta = 2 \left(\cos \frac{11}{6} \pi + i \sin \frac{11}{6} \pi \right) \cdot 2\sqrt{2} \left(\cos \frac{3}{4} \pi + i \sin \frac{3}{4} \pi \right)$$

$$= 4\sqrt{2} \left\{ \cos \left(\frac{11}{6} \pi + \frac{3}{4} \pi \right) + i \sin \left(\frac{11}{6} \pi + \frac{3}{4} \pi \right) \right\}$$

$$= 4\sqrt{2} \left(\cos \frac{31}{12} \pi + i \sin \frac{31}{12} \pi \right) = 4\sqrt{2} \left(\cos \frac{7}{12} \pi + i \sin \frac{7}{12} \pi \right)$$

$$\frac{\alpha}{\beta} = \frac{2 \left(\cos \frac{11}{6} \pi + i \sin \frac{11}{6} \pi \right)}{2\sqrt{2} \left(\cos \frac{3}{4} \pi + i \sin \frac{3}{4} \pi \right)} = \frac{1}{\sqrt{2}} \left\{ \cos \left(\frac{11}{6} \pi - \frac{3}{4} \pi \right) + i \sin \left(\frac{11}{6} \pi - \frac{3}{4} \pi \right) \right\}$$

$$= \frac{\sqrt{2}}{2} \left(\cos \frac{13}{12} \pi + i \sin \frac{13}{12} \pi \right)$$



7 複素数の積を表す点

2つの複素数 $\alpha = 1 + i, z$ について、点 αz は点 z をどのように移動した点か。

要 点

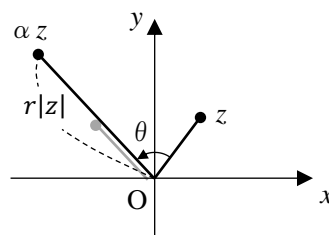
複素数 αz を表す点は、点 z を

原点 O のまわりに $\arg \alpha$ だけ回転し、

原点からの距離を $|\alpha|$ 倍

した点である。

$\alpha = r(\cos \theta + i \sin \theta)$ のとき



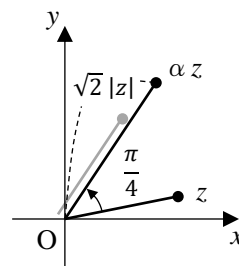
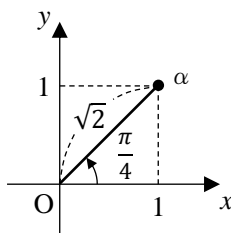
解答

$$\alpha = 1 + i = \sqrt{2} \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$$

であるから、点 αz は

点 z を、原点 O のまわりに $\frac{\pi}{4}$ だけ

回転し、原点からの距離を $\sqrt{2}$ 倍した点である。



8 複素数の商を表す点

2つの複素数 $\alpha = \sqrt{3} + i$, z について, 点 $\frac{z}{\alpha}$ は点 z をどのように移動した点か。

要 点

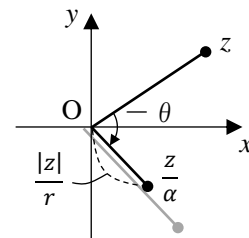
複素数 $\frac{z}{\alpha}$ を表す点は, 点 z を

原点 O のまわりに $-\arg \alpha$ だけ回転し,

原点からの距離を $\frac{1}{|\alpha|}$ 倍

した点である。

$\alpha = r(\cos \theta + i \sin \theta)$ のとき



解答

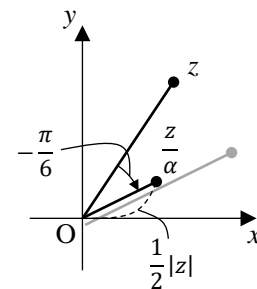
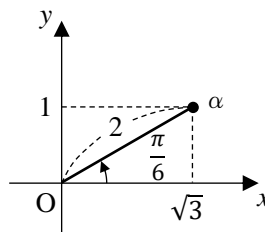
$$\alpha = \sqrt{3} + i = 2 \left(\cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right)$$

であるから, 点 $\frac{z}{\alpha}$ は

点 z を, 原点 O のまわりに $-\frac{\pi}{6}$ だけ

回転し, 原点からの距離を $\frac{1}{2}$ 倍

した点である。



9 複素数の n 乗の計算 (ド・モアブルの定理の利用)

次の計算をせよ。

(1) $\left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right)^3$

(2) $(1 - i)^6$

要 点

ド・モアブルの定理

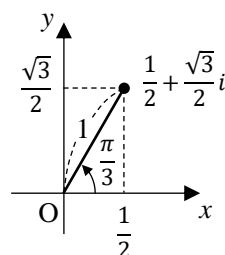
n が整数のとき $(\cos \theta + i \sin \theta)^n = \cos n \theta + i \sin n \theta$

解答

$$(1) \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i = \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}$$

であるから、ド・モアブルの定理により

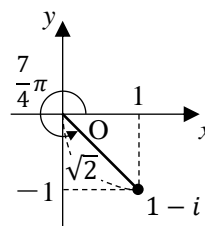
$$\begin{aligned} \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i\right)^3 &= \left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}\right)^3 = \cos\left(3 \cdot \frac{\pi}{3}\right) + i \sin\left(3 \cdot \frac{\pi}{3}\right) \\ &= \cos \pi + i \sin \pi = -1 \end{aligned}$$



$$(2) 1 - i = \sqrt{2} \left(\cos \frac{7}{4}\pi + i \sin \frac{7}{4}\pi \right)$$

であるから、ド・モアブルの定理により

$$\begin{aligned} (1 - i)^6 &= \left\{ \sqrt{2} \left(\cos \frac{7}{4}\pi + i \sin \frac{7}{4}\pi \right) \right\}^6 \\ &= (\sqrt{2})^6 \cdot \left(\cos \frac{7}{4}\pi + i \sin \frac{7}{4}\pi \right)^6 = 8 \cdot \left\{ \cos \left(6 \cdot \frac{7}{4}\pi \right) + i \sin \left(6 \cdot \frac{7}{4}\pi \right) \right\} \\ &= 8 \left(\cos \frac{21}{2}\pi + i \sin \frac{21}{2}\pi \right) = 8 \left\{ \cos \left(10\pi + \frac{1}{2}\pi \right) + i \sin \left(10\pi + \frac{1}{2}\pi \right) \right\} \\ &= 8 \left(\cos \frac{1}{2}\pi + i \sin \frac{1}{2}\pi \right) = 8i \end{aligned}$$

10 方程式 $z^n=1$ の解

極形式を利用して、方程式 $z^3=1$ を解け。

要 点

解を $z=r(\cos \theta + i \sin \theta)$ とおき、ド・モアブルの定理 $(\cos \theta + i \sin \theta)^n = \cos n\theta + i \sin n\theta$ を利用する。
右辺の 1 も極形式で表し、絶対値と偏角を両辺で比較して z を求める。
 θ は $0 \leq \theta < 2\pi$ の範囲で考えるとよい。

解答

$r > 0$, $0 \leq \theta < 2\pi$ として、 $z=r(\cos \theta + i \sin \theta)$ とおくと、ド・モアブルの定理により

$$z^3 = r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta) \quad \text{また、1 の極形式は } 1 = 1(\cos 0 + i \sin 0)$$

よって $r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta) = 1(\cos 0 + i \sin 0)$

ここで、1 の偏角は $0 + 2k\pi$ (k は整数) であるから、両辺の絶対値と偏角を比較すると

$$r^3 = 1, \quad 3\theta = 2k\pi \quad (k \text{ は整数})$$

$r > 0$ であるから $r = 1$ また $\theta = \frac{2}{3}k\pi$ $0 \leq \theta < 2\pi$ の範囲で考えると $k = 0, 1, 2$

したがって、 $\theta = 0, \frac{2}{3}\pi, \frac{4}{3}\pi$ であるから、求める解は

$$z = \cos 0 + i \sin 0, \quad \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi, \quad \cos \frac{4}{3}\pi + i \sin \frac{4}{3}\pi \quad \text{すなわち } z = 1, \quad \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}, \quad \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2}$$

コラム

方程式 $z^3=1$ の解

$$z = 1, \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}, \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2}$$

を順に z_0, z_1, z_2 として、複素数平面上に図示すると右の図のようになる。

3点 z_0, z_1, z_2 は単位円に内接する正三角形の頂点となっている。

また、 $z_1 = \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi$ であり

$$\begin{aligned} z_1^2 &= \left(\cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi \right)^2 = \cos \left(2 \cdot \frac{2}{3}\pi \right) + i \sin \left(2 \cdot \frac{2}{3}\pi \right) \\ &= \cos \frac{4}{3}\pi + i \sin \frac{4}{3}\pi = z_2 \end{aligned}$$

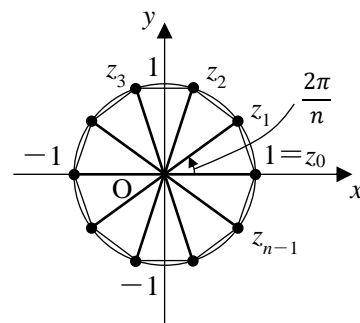
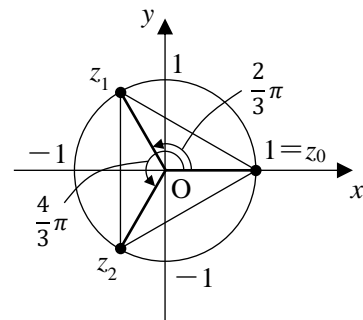
であるので、 $z_2 = z_1^2$ が成り立つ。

一般に、 n が自然数のとき、 $z^n=1$ を満たす複素数 z を **1 の n 乗根** という。複素数平面上に図示すると、点 1 を 1 つの頂点とする単位円に内接する正 n 角形の頂点となっている。

$$z = \cos \left(\frac{2\pi}{n} \times k \right) + i \sin \left(\frac{2\pi}{n} \times k \right)$$

ただし $k=0, 1, \dots, n-1$

と表すことができ、 $k=0, 1, \dots, n-1$ のときの z を順に z_0, z_1, \dots, z_{n-1} とすると、 $z_k = z_1^k$ が成り立つ。



1 1 方程式 $z^n = \alpha$ の解 (複素数 α の n 乗根)

方程式 $z^4 = -1$ を解け。

要点

(要点は、「1 0 方程式 $z^n=1$ の解」とほぼ同じ。)

解を $z=r(\cos \theta + i \sin \theta)$ とおき、ド・モアブルの定理

$$(\cos \theta + i \sin \theta)^n = \cos n \theta + i \sin n \theta$$

を利用する。

右辺も極形式で表し、絶対値と偏角を両辺で比較して z を求める。

θ は $0 \leq \theta < 2\pi$ の範囲で考えるとよい。

解答

$r > 0$, $0 \leq \theta < 2\pi$ として, $z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$ とおくと, ド・モアブルの定理により

$$z^4 = r^4(\cos 4\theta + i \sin 4\theta) \quad \text{また, } -1 \text{ の極形式は } -1 = 1(\cos \pi + i \sin \pi)$$

よって $r^4(\cos 4\theta + i \sin 4\theta) = 1(\cos \pi + i \sin \pi)$

ここで, -1 の偏角は $\pi + 2k\pi$ (k は整数) であるから, 両辺の絶対値と偏角を比較すると

$$r^4 = 1, \quad 4\theta = \pi + 2k\pi \quad (k \text{ は整数})$$

$r > 0$ であるから $r = 1$ 　また $\theta = \frac{\pi}{4} + \frac{k}{2}\pi$ 　 $0 \leq \theta < 2\pi$ の範囲で考えると $k = 0, 1, 2, 3$

したがって, $\theta = \frac{\pi}{4}, \frac{3}{4}\pi, \frac{5}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$ であるから, 求める解は

$$z = \cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4}, \quad \cos \frac{3}{4}\pi + i \sin \frac{3}{4}\pi, \quad \cos \frac{5}{4}\pi + i \sin \frac{5}{4}\pi, \quad \cos \frac{7}{4}\pi + i \sin \frac{7}{4}\pi$$

$$\text{すなわち } z = \frac{\sqrt{2} + \sqrt{2}i}{2}, \quad \frac{-\sqrt{2} + \sqrt{2}i}{2}, \quad \frac{-\sqrt{2} - \sqrt{2}i}{2}, \quad \frac{\sqrt{2} - \sqrt{2}i}{2}$$

1 2 線分の内分点・外分点, 三角形の重心を表す複素数

(1) 2点 $P(-1+5i)$, $Q(5+2i)$ を結ぶ線分 PQ を $1:2$ に内分する点, 外分する点を表す複素数を, それぞれ求めよ。また, 線分 PQ の中点を表す複素数を求めよ。

(2) 3点 $A(-1+5i)$, $B(5+2i)$, $C(2-4i)$ を頂点とする $\triangle ABC$ の重心を表す複素数を求めよ。

要 点

線分の内分点, 外分点

2点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$ を結ぶ線分 AB を $m:n$ に 内分する点は $\frac{n\alpha + m\beta}{m+n}$, 外分する点は $\frac{-n\alpha + m\beta}{m-n}$

特に, 線分 AB の中点は $\frac{\alpha + \beta}{2}$

三角形の重心

3点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ を頂点とする $\triangle ABC$ の重心は $\frac{\alpha + \beta + \gamma}{3}$

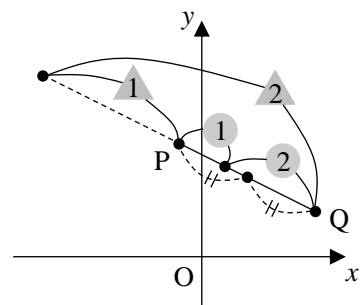
解答

(1) 線分 PQ を $1:2$ に

$$\text{内分する点は } \frac{2(-1+5i) + 1 \cdot (5+2i)}{1+2} = \frac{3+12i}{3} = 1+4i$$

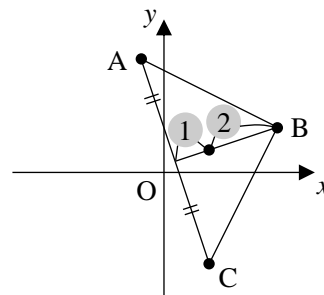
$$\text{外分する点は } \frac{-2(-1+5i) + 1 \cdot (5+2i)}{1-2} = \frac{7-8i}{-1} = -7+8i$$

$$\text{線分 } PQ \text{ の中点は } \frac{(-1+5i) + (5+2i)}{2} = \frac{4+7i}{2}$$



(2) 求める重心は

$$\frac{(-1+5i) + (5+2i) + (2-4i)}{3} = \frac{6+3i}{3} = 2+i$$



13 2点間の距離

2点 $P(-1+5i)$, $Q(5+2i)$ 間の距離を求めよ。

要 点

複素数平面上の2点 α , β 間の距離は $|\beta - \alpha|$

〈注意〉 a, b を実数とする。 $z = a + bi$ のとき $|z| = \sqrt{a^2 + b^2}$

解答

$$|(5+2i) - (-1+5i)| = |6-3i| = \sqrt{6^2 + (-3)^2} = \sqrt{45} = 3\sqrt{5}$$

14 等式を満たす点のえがく図形(1) (垂直二等分線, 円)

次の等式を満たす点 z のえがく図形を求めよ。

(1) $|z-2| = |z+3i|$

(2) $|3z-4+5i| = 6$

要 点

垂直二等分線

異なる2定点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$ と動点 $P(z)$ に対して

$$|z-\alpha| = |z-\beta| \Leftrightarrow AP=BP \Leftrightarrow \text{点 } P \text{ は2点 } A, B \text{ から等距離にある}$$

したがって, 等式 $|z-\alpha| = |z-\beta|$ を満たす点 z のえがく図形は, 2点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$ を結ぶ線分 AB の垂直二等分線である。

円

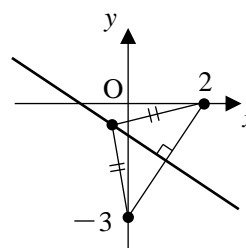
定点 $A(\alpha)$ と動点 $P(z)$, 正の実数 r に対して

$$|z-\alpha| = r \Leftrightarrow AP=r \Leftrightarrow \text{点 } P \text{ は点 } A \text{ から一定の距離 } r \text{ にある}$$

したがって, 等式 $|z-\alpha| = r$ を満たす点 z のえがく図形は, 点 $A(\alpha)$ を中心とする半径 r の円である。

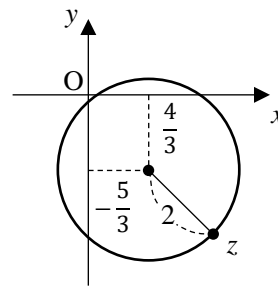
解答

(1) $|z-2| = |z+3i|$ から, 点 z は 2点 2 , $-3i$ を結ぶ線分の垂直二等分線 をえがく。



(2) 与えられた等式を変形すると $\left|z - \frac{4-5i}{3}\right| = 2$

よって、点 z は点 $\frac{4-5i}{3}$ を中心とする半径2の円
をえがく。



コラム

(1), (2)は, x, y を実数とし, $z = x + yi$ とおいて $|z|^2 = z\bar{z}$ を利用すると, xy 平面上の図形の方程式を求める方法で点 z のえがく図形を求めることもできる。

また, $z = x + yi$ とおくことで, 次の点 z のえがく図形を求めることもできる。

- ① $z + \bar{z} = a$ (a は実数)
- ② $z - \bar{z} = bi$ (b は実数)

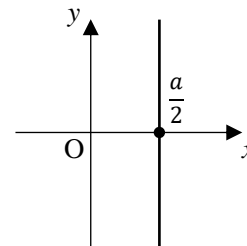
解答

① $z = x + yi$ とおくと, $\bar{z} = x - yi$ であるから
 $z + \bar{z} = (x + yi) + (x - yi) = 2x$

よって, $2x = a$ より $x = \frac{a}{2}$

したがって, $z = \frac{a}{2} + yi$ であるから, 点 z は

点 $\frac{a}{2}$ を通り, 実軸に垂直な直線 をえがく。

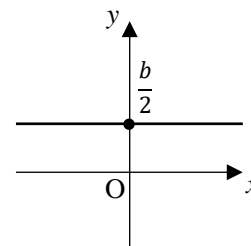


② $z = x + yi$ とおくと, $\bar{z} = x - yi$ であるから
 $z - \bar{z} = (x + yi) - (x - yi) = 2yi$

よって, $2yi = bi$ より $y = \frac{b}{2}$

したがって, $z = x + \frac{b}{2}i$ であるから, 点 z は

点 $\frac{b}{2}i$ を通り, 虚軸に垂直な直線 をえがく。



15 等式を満たす点のえがく図形(2) (アポロニウスの円)

等式 $|z| = 2|z + 3i|$ を満たす点 z のえがく図形を求めよ。

要 点

等式の両辺を 2 乗して、 $|z|^2 = z\bar{z}$ を利用して絶対値をはずす。
 共役な複素数の性質 $\overline{\alpha + \beta} = \bar{\alpha} + \bar{\beta}$, $\overline{\alpha - \beta} = \bar{\alpha} - \bar{\beta}$, $z\bar{z} = |z|^2$
 を用いて、「14 等式を満たす点のえがく図形(1)」で学習したような、既知の形に変形する。

解答

等式の両辺を 2 乗すると $|z|^2 = 4|z + 3i|^2$

共役な複素数の性質により

$$\begin{aligned} z\bar{z} &= 4(z + 3i)\overline{(z + 3i)} \\ &= 4(z + 3i)(\bar{z} - 3i) \end{aligned}$$

展開すると $z\bar{z} = 4(z + 3i)(\bar{z} - 3i) = 4(z\bar{z} - 3iz + 3i\bar{z} - 9i^2) = 4z\bar{z} - 12iz + 12i\bar{z} + 36$

整理すると $z\bar{z} - 4iz + 4i\bar{z} + 12 = 0$

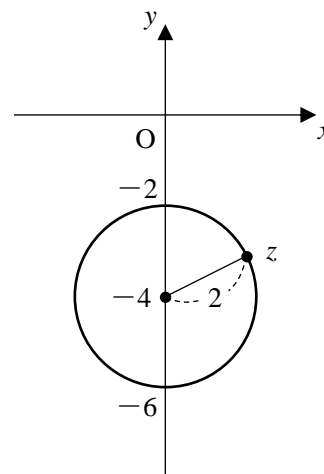
絶対値の 2 乗ができるように変形すると

$$\begin{aligned} z(\bar{z} - 4i) + 4i(\bar{z} - 4i) + 16i^2 + 12 &= 0 \\ (z + 4i)(\bar{z} - 4i) &= 4 \\ (z + 4i)\overline{(z + 4i)} &= 4 \\ |z + 4i|^2 &= 2^2 \end{aligned}$$

よって $|z + 4i| = 2$

したがって、点 z は点 $-4i$ を中心とする半径 2 の円をえがく。

$\overline{z + 4i} = \bar{z} - 4i$ である
 ことを考慮して、
 $(z + 4i)(\bar{z} - 4i)$
 の形ができるように
 式変形する。



コ ラ ム

x, y を実数とし、 $z = x + yi$ において $|z|^2 = z\bar{z}$ を利用すると、 xy 平面上の図形の方程式を求める方法で点 z のえがく図形を求めることもできる。

また、2 定点 $O(0)$, $A(-3i)$ と動点 $P(z)$ とすると、与えられた等式は

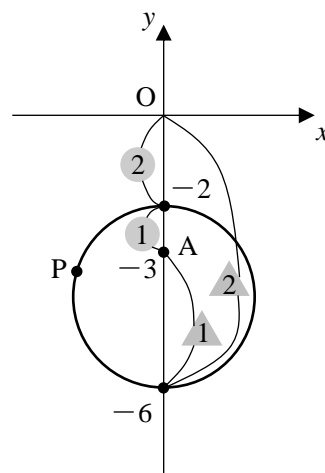
$$OP = 2AP \quad \text{すなわち} \quad OP : AP = 2 : 1$$

とみることができる。これはアポロニウスの円であるから、動点 P は線分 OA を $2 : 1$ に

$$\text{内分する点, すなわち} \quad \frac{0 - 6i}{2 + 1} = -2i \quad \text{と,}$$

$$\text{外分する点, すなわち} \quad \frac{-0 - 6i}{2 - 1} = -6i$$

を直径とする円をえがく。



16 ともなって動く点のえがく図形

点 z が原点 O を中心とする半径 1 の円周上を動くとき、 $w=zi+2-i$ を満たす点 w のえがく図形を求めよ。

要 点

- ① 点 z の条件を満たす等式を求める。
- ② 与えられた w の条件式を z について解き、①の等式に代入する。
- ③ ②の等式から、点 w のえがく図形を求める。

解答

点 z は原点 $O(0)$ を中心とする半径 1 の円をえがくから $|z|=1$ ……①

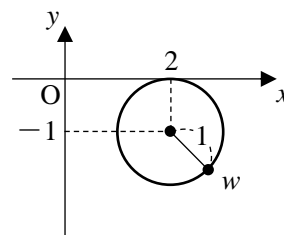
$w = zi + 2 - i$ から $zi = w - 2 + i$ $z = \frac{w - 2 + i}{i}$ よって $z = -iw + 2i + 1$

これを①に代入すると $|-iw + 2i + 1| = 1$ $|-i| \left| w - 2 - \frac{1}{i} \right| = 1$

ここで、 $|-i| = \sqrt{0^2 + (-1)^2} = 1$ 、 $-\frac{1}{i} = i$ であるから

$$|w - (2 - i)| = 1$$

したがって、点 w は 点 $2-i$ を中心とする半径 1 の円をえがく。



17 2直線のなす角, 3点が一直線上にある条件, 垂直条件

- (1) 3点を $A(2+3i)$, $B(-1+2i)$, $C(-i)$ とするとき、 $\angle BAC$ の大きさを求めよ。
- (2) 3点 $A(2+3i)$, $B(-1+2i)$, $C(a+i)$ が次の条件を満たすように、実数 a の値を定めよ。
 - ① 3点 A, B, C が一直線上にある ② $AB \perp AC$

要 点

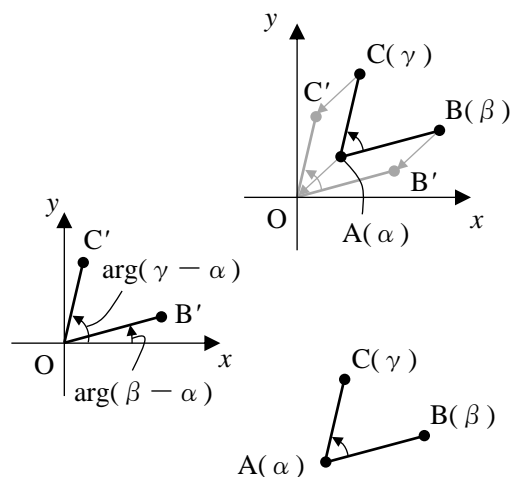
2直線のなす角

異なる3点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ に対して、半直線 AB から半直線 AC へ測った角 $\angle BAC$ について考える。
 点 A を原点 O に移す平行移動によって、点 B, C をそれぞれ点 B', C' に移すとき、点 B', C' を表す複素数はそれぞれ $\beta - \alpha$, $\gamma - \alpha$ であるから

$$\angle BAC = \angle B'OC' = \arg(\gamma - \alpha) - \arg(\beta - \alpha) = \arg \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$$

以上をまとめると、異なる3点を $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ と

するとき $\angle BAC = \arg \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$



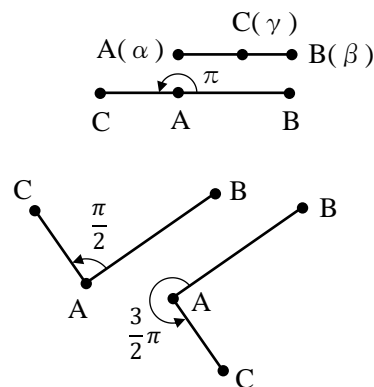
3点A, B, Cが一直線上にある条件, 垂直条件

異なる3点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ に対して, $0 \leq \angle BAC < 2\pi$ とすると

- $\angle BAC = 0$ または π のとき, 3点 A, B, C は一直線上にある。
- $\angle BAC = \frac{\pi}{2}$ または $\frac{3}{2}\pi$ のとき, $AB \perp AC$ である。

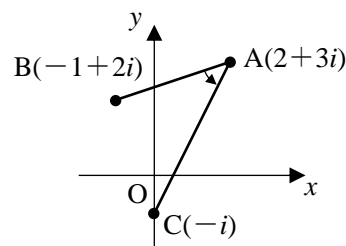
したがって, 異なる3点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ に対して, 次のことが成り立つ。

- 3点 A, B, C が一直線上にある $\Leftrightarrow \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$ が実数
- $AB \perp AC \Leftrightarrow \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$ が純虚数



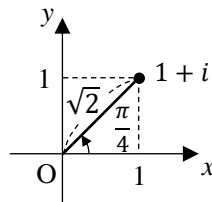
解答

$$\begin{aligned}
 (1) \quad \angle BAC &= \arg \frac{-i - (2 + 3i)}{(-1 + 2i) - (2 + 3i)} = \arg \frac{-2 - 4i}{-3 - i} \\
 &= \arg \frac{(-2 - 4i)(-3 + i)}{(-3 - i)(-3 + i)} = \arg \frac{6 - 2i + 12i - 4i^2}{9 - i^2} \\
 &= \arg \frac{10 + 10i}{10} = \arg(1 + i)
 \end{aligned}$$



ここで, $1 + i = \sqrt{2} \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$ であるから

$$\arg(1 + i) = \frac{\pi}{4}$$



よって $\angle BAC = \frac{\pi}{4}$

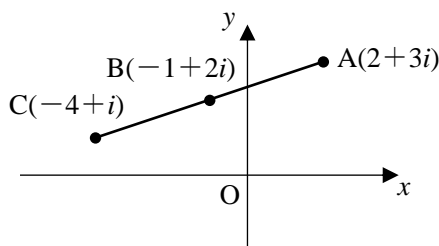
(2) $\alpha = 2 + 3i$, $\beta = -1 + 2i$, $\gamma = a + i$ とし, まず $\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$ を計算すると

$$\begin{aligned}
 \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} &= \frac{(a + i) - (2 + 3i)}{(-1 + 2i) - (2 + 3i)} = \frac{(a - 2) - 2i}{-3 - i} = \frac{\{(a - 2) - 2i\}(-3 + i)}{(-3 - i)(-3 + i)} \\
 &= \frac{-3(a - 2) + (a - 2)i + 6i - 2i^2}{9 - i^2} = \frac{(-3a + 8) + (a + 4)i}{10} \dots\dots (i)
 \end{aligned}$$

① 3点 A, B, C が一直線上にあるには,

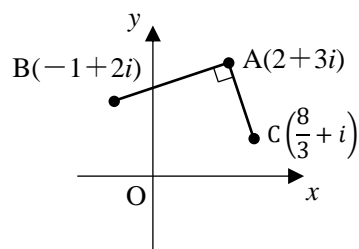
(i) が実数であればよい。

よって, $a + 4 = 0$ から $a = -4$



- ② $AB \perp AC$ となるには,
 (i)が純虚数であればよい。
 よって, $-3a+8=0$ かつ $a+4 \neq 0$ から

$$a = \frac{8}{3}$$



18 三角形の形状

- (1) 異なる3点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ に対して, 等式 $\beta + \alpha i = \gamma(1+i)$ が成り立つとき, $\triangle ABC$ はどのような三角形か。
 (2) 異なる3点 $O(0)$, $A(\alpha)$, $B(\beta)$ に対して, 等式 $\alpha^2 - \alpha\beta + \beta^2 = 0$ が成り立つとき, $\triangle OAB$ はどのような三角形か。

要 点

- (1) 異なる3点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ に対して,

$$\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} = z$$

となるとすると $\angle BAC = \arg z$

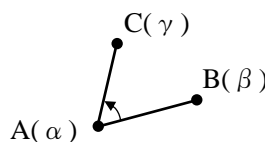
である。また, $\frac{|\gamma - \alpha|}{|\beta - \alpha|} = |z|$ であるから

$$AC : AB = |z| : 1$$

である。これらにより, 2辺の比とその間の角がわかるので, $\triangle ABC$ の形状がわかる。
 よって, $\triangle ABC$ の形状を調べるときは, 次の形に変形する。

$$\frac{\Delta - O}{\square - O} = x + yi \quad (O, \square, \Delta \text{ は頂点を表す複素数, } x, y \text{ は実数})$$

- (2) 三角形の頂点の1つが原点であるから, 複素数 $\frac{\alpha}{\beta}$ を求めれば, (1)と同様にして $\triangle OAB$ の形状を調べるができる。



解答

- (1) 等式を変形すると, $\beta + \alpha i = \gamma + \gamma i$ より $\beta - \gamma = (\gamma - \alpha)i$

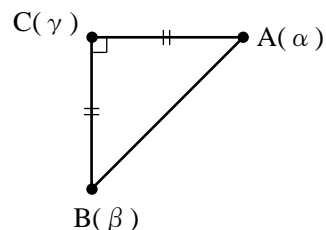
よって $\frac{\beta - \gamma}{\alpha - \gamma} = -i$

ここで, $|-i|=1$ であり,

$\frac{\beta - \gamma}{\alpha - \gamma}$ は純虚数であるから

$$CA = CB, \quad CA \perp CB$$

したがって, $\triangle ABC$ は $CA = CB$ の直角二等辺三角形である。



(2) $\beta \neq 0$ より $\beta^2 \neq 0$ であるから、等式の両辺を β^2 で割ると

$$\frac{\alpha^2}{\beta^2} - \frac{\alpha}{\beta} + 1 = 0$$

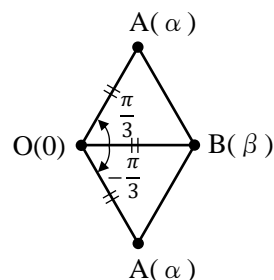
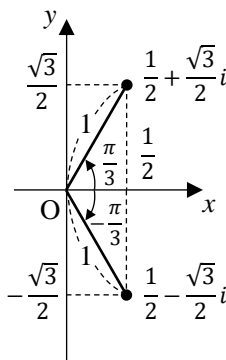
よって
$$\frac{\alpha}{\beta} = \frac{-(-1) \pm \sqrt{1-4}}{2} = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$$

ここで、 $\frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2} = \cos \frac{\pi}{3} \pm i \sin \frac{\pi}{3}$ であるから

$$\left| \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2} \right| = 1, \quad \arg \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2} = \pm \frac{\pi}{3}$$

したがって、 $OB = OA$, $\angle BOA = \pm \frac{\pi}{3}$ である

から、 $\triangle OAB$ は 正三角形 である。

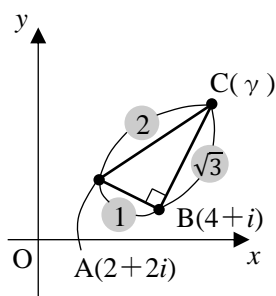


19 点 α のまわりの回転移動と拡大・縮小

(1) $\alpha = 2 + 2i$, $\beta = 4 + i$ とするとき、点 β を点 α のまわりに $\frac{\pi}{4}$ だけ回転した点を表す複素数 z を求めよ。

(2) 3 点 $A(2+2i)$, $B(4+i)$, $C(\gamma)$ を頂点とする三角形が、右の図のような

$AB : AC : BC = 1 : 2 : \sqrt{3}$ の直角三角形であるとき、 γ を求めよ。



要 点

点 β を、点 α のまわりに θ だけ回転し、点 α からの距離を r 倍した点 z について考える。

点 α を原点 O に移す平行移動によって、点 β , z をそれぞれ点 β' , z' に移すとき、点 β' , z' を表す複素数はそれぞれ $\beta - \alpha$, $z - \alpha$ である。

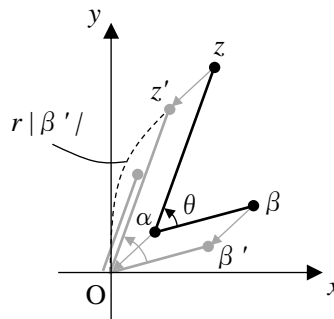
点 β' を原点 O のまわりに θ だけ回転し、原点からの距離を r 倍した点 z' である。

よって、「7 複素数の積を表す点」で学習したことから $z' = r(\cos \theta + i \sin \theta) \cdot \beta'$

すなわち $z - \alpha = (\beta - \alpha) \cdot r(\cos \theta + i \sin \theta)$

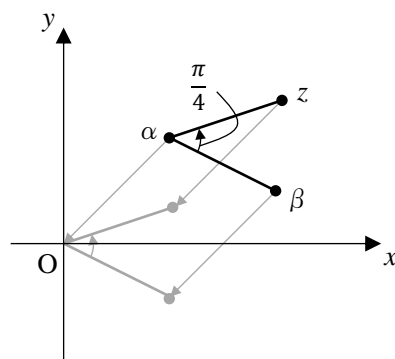
以上をまとめると、点 β を、点 α のまわりに θ だけ回転し、点 α からの距離を r 倍した点 z を表す複素数は

$$z = (\beta - \alpha) \cdot r(\cos \theta + i \sin \theta) + \alpha$$



解答

$$\begin{aligned}
 (1) \quad z &= \{(4+i) - (2+2i)\} \cdot \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4}\right) + (2+2i) \\
 &= (2-i) \cdot \left(\frac{\sqrt{2} + \sqrt{2}i}{2}\right) + (2+2i) \\
 &= \sqrt{2} + \sqrt{2}i - \frac{\sqrt{2}}{2}i - \frac{\sqrt{2}}{2}i^2 + 2 + 2i \\
 &= 2 + \frac{3\sqrt{2}}{2} + \left(2 + \frac{\sqrt{2}}{2}\right)i
 \end{aligned}$$



(2) $\alpha = 2 + 2i$, $\beta = 4 + i$ とすると, 点 γ は, 点 β を点 α のまわりに $\frac{\pi}{3}$ だけ回転し, 点 α からの距離を 2 倍した点である。

$$\begin{aligned}
 \text{よって } \gamma &= \{(4+i) - (2+2i)\} \cdot 2 \left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}\right) + (2+2i) \\
 &= (2-i) \cdot 2 \left(\frac{1 + \sqrt{3}i}{2}\right) + (2+2i) = 2 + 2\sqrt{3}i - i - \sqrt{3}i^2 + 2 + 2i \\
 &= 4 + \sqrt{3} + (1 + 2\sqrt{3})i
 \end{aligned}$$

研究 不等式 $|z - \alpha| \leq r$ の表す領域

複素数 z が, 不等式 $|3z - 4 + 5i| \leq 6$ を満たすとき, 点 z の表す領域を図示せよ。

要 点

定点 $A(\alpha)$ と動点 $P(z)$, 正の実数 r に対して

$$|z - \alpha| \leq r \iff AP \leq r \iff 2 \text{ 点 } P, A \text{ 間の距離は } r \text{ 以下}$$

したがって, 等式 $|z - \alpha| \leq r$ を満たす点 z の表す領域は, 点 $A(\alpha)$ を中心とする半径 r の円およびその内部である。

〈注意〉・不等式 $|z - \alpha| < r$ の表す領域は, 点 α を中心とする半径 r の円の内部

・不等式 $|z - \alpha| \geq r$ の表す領域は, 点 α を中心とする半径 r の円およびその外部

・不等式 $|z - \alpha| > r$ の表す領域は, 点 α を中心とする半径 r の円の外部

解答

与えられた等式を変形すると $\left|z - \frac{4 - 5i}{3}\right| \leq 2$

よって, 点 z の表す領域は,

点 $\frac{4 - 5i}{3}$ を中心とする半径 2 の円およびその内部

で, 右の図の斜線部分である。

ただし, 境界線を含む。

